

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	南九州市茶業振興会
役職	
氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和4年6月(着任1年5ヶ月)
主な活動	1. 4年ぶりの乗用型茶摘採競技大会開催！ 2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談 3. 地域を超えた情報交流への注力、その他

1. 4年ぶりの乗用型茶摘採競技大会開催！



写真:10台の乗用型茶摘採機が並び、開聞岳を背景にスタート！

実に4年ぶりとなる「乗用型茶摘採競技大会」を、二番茶がひと段落した6月末に開催いたしました。通常この時期は梅雨シーズン真っ只中にて、大雨での延期、または中止の可能性がある中、本年は非常に短い梅雨シーズンとなり晴天の炎天下の中、大会は実施されました。

地元南九州市に本社を持つ松本機工の摘採機を中心に、計10茶工場が参加し、摘採スピード/正確さ/安全性などを評価対象として優勝を目指します。

地域おこし協力隊活動報告書

今回、地元TV局MBCやNHKに取材をいただき、地元鹿児島の方々に知っていただいたほか、ウェブで発信された放送内容をSNSで共有するなど、県外にお住まいの方々にも広くご案内をしています。

また、当日は限定人数での開催であったので、地元の方々もリアルタイムでお楽しみいただけるよう、SNSを活用した大会の生配信を実施いたしました。

▼NHK NEWS WEBIはこちらから

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kagoshima/20220630/5050019240.html>

▼摘採競技大会アーカイブはこちらから

<https://www.instagram.com/p/CfaQua6q5SU/>



写真：乗用型茶摘採競技大会 会場の様子

2020年のコロナ禍初期の頃より継続していた「オンライン発信」を主にした茶業振興活動が、ようやく地元茶業関連の方々にも浸透してきているのを肌で感じます。

最近では、生産現場から「どうせ(イベントを)やるなら、広く見ていただく為にオンライン発信を試みたら？」という意見が頻繁に出るようになり、茶生産地として大きな一歩を踏み出したと強く感じています。

新規事業(新たな取組)において、企画から実行までのプロセスの中で、現場から必ずと言っていいほど異を唱える声や疑問視されるシーンに直面します。これには様々な所以があると考えているのですが、特に評価者が「何を持って成功と言えるのかが想像しづらい」という点が、ソフト事業の展開における一つの焦点になっているのかと考えます。

企画・提案・実施主体となる取組をつくっている私が大切にしていることは、周りがなんと言おうと根気強く事業継続をし、不確かな長期の結果を求め続けるよりも、短期の結果を積み重ねていくことです。

そうしているうちに、自ずと周りがついてくるであろうと思いながら日々業務と向き合っています。

2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談

当月は、早くも秋から年末、年度末にかけての知覧茶PRイベントに向けた企業との各種商談を実施しております。コロナ感染者数の増減はあるものの、世界は着々と人やモノの流動性が上がってきている印象を受けます。詳細につきましては、実施後改めて報告いたします。

別件にて、ようやく新茶時期からのソトへの情報発信・PR活動が落ち着いてきたこの時期、南九州市を含む南薩エリアで積極的な活動を実施されている方々が集まり、南薩エリアの活性化を目的とした意見交流会が行われ参加いたしました。



写真：南薩地域交流会の様子(枕崎市/指宿市/南さつま市/南九州市の方々と)

車ですぐそのエリアに住んでいるものの、なかなか市を超えての交流まで至らなかったこれまでの状況を踏まえ、同じような共通課題解決に向け動いている方々が自治体の縛りにとらわれない働きはできないかということで、新たな取組が始まろうとしています。

3. 地域を超えた情報交流への注力、その他

年間を通しお茶の普及や広報活動を活発に実施している、指宿商業高校のICP(指宿茶いっぺプロジェクト)のメンバー向けで、当月下旬お茶淹れ教室を実施いたしました。

特に、蒸し暑い日が続くこの時期に飲みたくなるのは「冷茶」であり、暖かいお茶から氷で急冷し作る方法や、氷水でゆっくりと抽出し作る方法など、座学＋実技のスタイルで、色や味わいの違いを知っていただきました。

地域おこし協力隊活動報告書



写真：指宿商業高校ICPとのお茶淹れ教室にて

茶産地鹿児島で育った学生達は、お茶に対する思いも強くPRイベントに積極的に参加されたり、時には企画の段階から挑戦する姿に、非常に感銘を受けたことです。

南九州市内にも学校は多くありますが、今後は若い方々がPR活動などに対し「やらされている」という感覚から「自分からしたい」と思えるような企画、組織のブランディング作りをすることが非常に重要であると感じています。

また、当日の様子をSNS発信したところ、県外の方々(お子さんを持つフォロワーさん達)からお茶淹れ教室を熱望するような嬉しいお声もいただいております。

以上簡単ではございますが、当月の報告といたします。